

図 7.3-4 爬虫類相, 両生類相, 昆虫類相, クモ類相調査範囲及び
昆虫類ライトトラップ・ベイトトラップ調査地点、土壌動物土壌採取地点

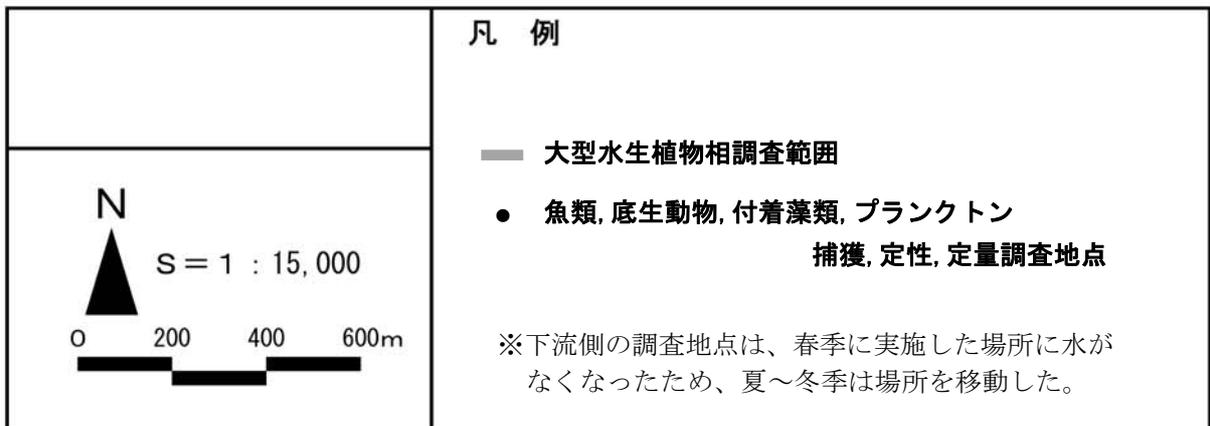
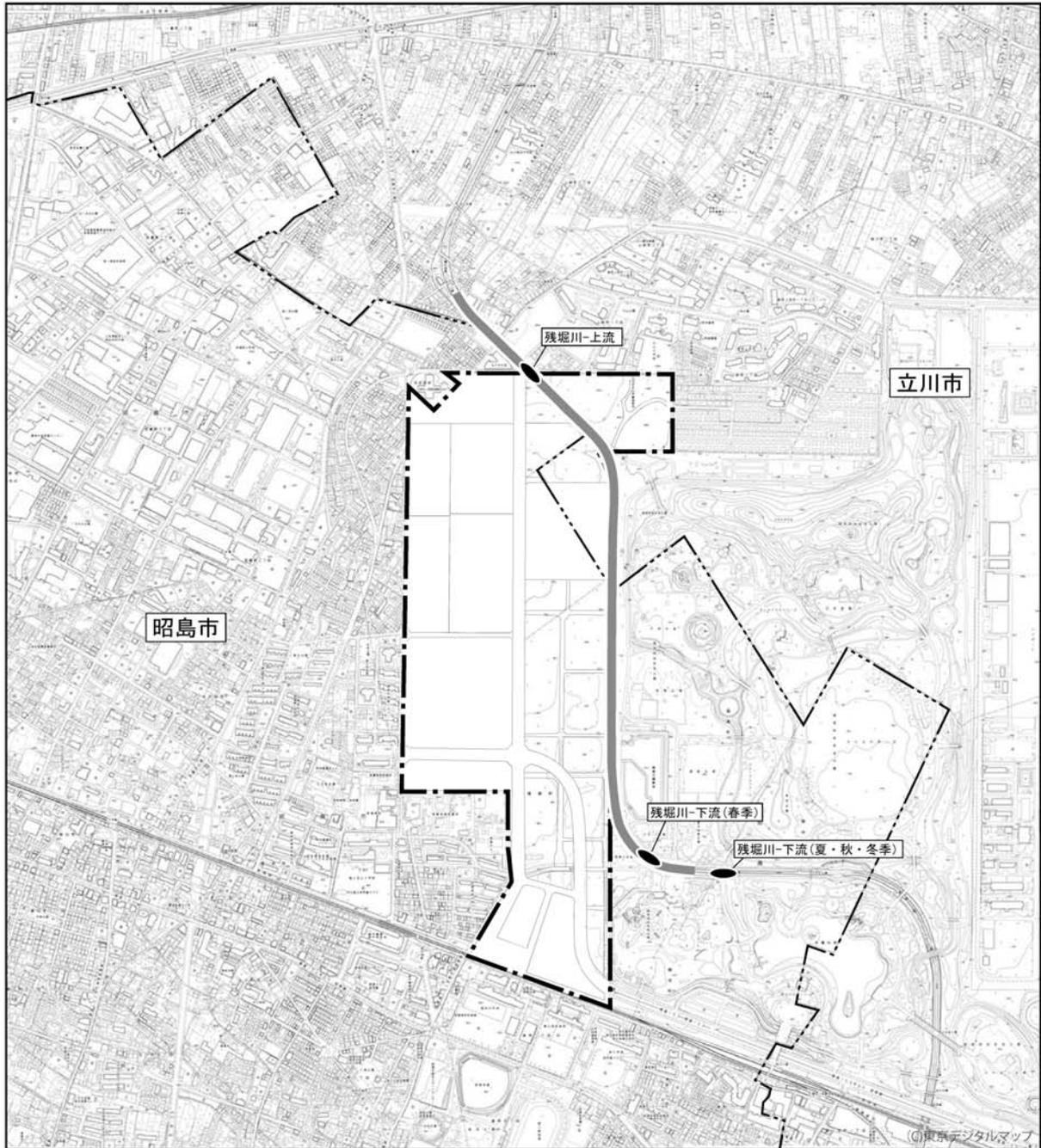


図 7.3-5 大型水生植物相調査範囲及び魚類, 底生動物, 付着藻類, プランクトン
捕獲, 定性, 定量調査地点

7.3.3 調査結果

(1) 事後調査の結果の内容

1) 植物相及び植物群落の変化及びその程度

a) 植物相

ア.確認種

事後調査における植物種の確認状況を表 7.3-2 に示す。

全確認種 115 科 602 種中、事業区域内で確認された種は 115 科 547 種であった。確認種数は、評価書時の事業区域内確認種数 122 科 597 種から 50 種減少している。

確認種数の減少は、評価書で予測したとおり、事業の実施により事業区域内の樹林地や草地などの植物群落が減少し、それらの場所に生育する植物個体が減少したことに伴うものと考えられる。

特に、ヤナギ類、カヤツリグサ類などの水辺環境を好む種の減少は、事業区域北側の湿地に分布していたオギ群落が公園となり、残堀川の河道内を除いて湿性植物の生育環境が存在しなくなったためと考えられる。これに対して、環境保全用地や公園内の残存樹林では、評価書時点と同様にエノキやムクノキ、植栽されたソメイヨシノ等のサクラ類、スズカケノキ類などが確認された。

表 7.3-2 植物確認科種数

分類		供用時				評価書時点				
		事業区域内		周辺域		事業区域内		周辺域		
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	
シダ植物		11	26	10	19	13	44	11	29	
裸子植物		7	14	6	13	7	15	6	11	
被子植物	双子葉植物	離弁花類	63	250	61	247	63	256	75	319
		合弁花類	23	128	23	130	26	132	31	187
	単子葉植物	11	129	10	118	13	150	15	193	
合計		115	547	110	527	122	597	138	739	
		115科602種				148科903種				

イ.注目される種

事後調査の植物相調査で確認された注目される植物は、表 7.3-3 に示すマツバランとエビネの 2 種である。確認位置は図 7.3-6 に示すとおり残存樹林内である。評価書時点からの注目される植物の確認経緯は表の注記に示した。

なお、コゴメヤナギは評価書で予測したとおり消失した生育地点もあるが、2号公園の生育地点は、予測後に公園の計画に配慮を加えて現況保全した。また、コイケマは生育地は消失したが移植保全により種の存続を図っており、平成 30 年度のモニタリング調査でも生育が確認された。

表 7.3-3 注目される植物

科名	種名	供用時	評価書時点	選定基準			
				①	②	③	④
マツバラ	マツバラ	●	●			NT	
コバノイシカグマ	オオレンシダ		○				EX
	イワヒメワラビ		○				NT
ホングウシダ	ホラシノブ		○				DD
オシダ	アイアスカイノデ		○				EN
	コゴメヤナギ	■	●				VU
トウダイグサ	ニシキソウ		○				NT
ガガイモ	コイケマ	■	●				EX
ユリ	アマドコロ	□	●				VU
	アオガヤツリ		○				NT
ラン	シラン		●			NT	
	エビネ	●	○			NT	VU
	ギンラン		○				VU
	キンラン		○			VU	VU
	ササバギンラン		○				NT
	タシロラン		○			NT	
8科	16種	5種	16種	0種	0種	5種	13種

注1) 評価書時点で選定基準として用いていた「東京都の保護上重要な野生生物種」平成10年版は、選定基準④に改訂されたため、本調査では使用しなかった。この結果、選定基準④で「北多摩」においてデータ無しとされているナツノハナワラビ及び記載されていないシンミズヒキの2種は選定外とした。

注2) ■の種は本事業での移植等により保全されており、平成30年度のモニタリング調査で生育が確認されている。

注3) □の種は本事業での移植等により保全されており、平成30年度のモニタリング調査では生育が確認されなかったが、平成30年が猛暑であったことから、株が休眠した可能性がある。

注4) ○の種は移植対象種を選定するために平成24・25年に実施した現地調査で再確認されなかった。

タシロランは平成28年3月の変更届で新たに改変範囲となった範囲の生育地で平成28年に実施した現地調査でも再確認されなかった。

注5) マツバラ及びシランの2種は、有識者等からなる「立川基地跡地昭島地区植物保全方策検討会」において、自然分布ではないと判断され、移植対象種として選定されなかった。

① 文化財保護法
「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)
特天: 特別天然記念物
天: 天然記念物

② 環境省RL: 「環境省 レッドリスト2019」(環境省, 2019)
EX: 絶滅
EW: 野生絶滅
CR: 絶滅危惧 I A類
EN: 絶滅危惧 I B類
VU: 絶滅危惧 II類
NT: 準絶滅危惧
DD: 情報不足
LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

③ 種の保存法
「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)
国内: 国内希少野生動植物種
国際: 国際希少野生動植物種

④ 東京都RL: 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)-東京都レッドリスト-2010年版」(東京都, 2010)
EX: 絶滅
EW: 野生絶滅
CR: 絶滅危惧 I A類
EN: 絶滅危惧 I B類
GR+NT: 絶滅危惧 I 類
VU: 絶滅危惧 II類
NT: 準絶滅危惧
DD: 情報不足
*: 留意種

植物相調査で確認された注目される植物の概要と確認状況を以下に示す。

・マツバラ

マツバラは樹上または岩上に着生する常緑のシダ植物であり、本州・四国・九州・沖縄に分布する。

事業区域内の残存樹林内 3 箇所で、合計 70 株以上が確認された。生育状況は良好であり、一般的には樹上または岩上に着生するが、事業区域ではほとんどの個体が地面に生育しており、多くの子株も見られた。

・エビネ

エビネは常緑の多年草であり、北海道・本州・四国・九州に分布する。

事業区域内の残存樹林内 1 箇所で、約 10 株が確認された。生育状況は良好であった。

注目される植物保護のため非公表

凡 例

● : 注目される植物(植物相調査で確認された種)

※()内の数字は、確認株数を示す

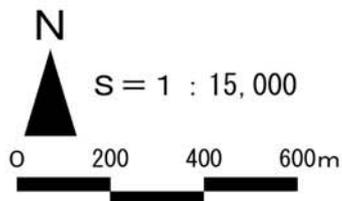


図 7.3-6 注目される植物確認位置